

# 学校読書活動の取組【長岡京市立長法寺小学校】

## 1 研究主題

「ことばの力を培い、豊かな心を育む」

- 図書館教育を通して、思考力・判断力・表現力を育成する -

## 2 学校の概況

本校は、明治5年7月乙訓地方では最も早く学制制定以前に創立された唯一の学校である。本校区は、在来の農家と新興住宅地から成り立ち落ち着いた生活環境である。紅葉の名所である光明寺、きりしまつつじで有名な長岡天満宮は本校区にある。地域は、教育熱心で様々な活動に協力的である。また、保護者も、授業参観や各種の行事に多数来校されるなど、PTA活動も活発であり、教育への関心が高い。



## 3 実践内容

### (1) 本校の図書館教育について

#### ア 研究の方針

本校は、平成30年度より、京都府小学校教育研究会の研究指定校として、図書館教育の研究を行ってきた。全教育課程を通して図書教材を有効に活用する中で、自分の考えを相手により良く伝える力を育て、コミュニケーションの力を高め、より良い人間関係を築ける豊かな心を育むことを目指している。



#### イ 本校の図書館教育

教科の目標を達成するために図書教材を効果的に取り入れ、並行読書や調べ学習を行っている。読書に親しむだけでなく、本を読む中で感じた思いや考えを相手に伝え、やりとりを繰り返す中で、相手の考えに関心をもって聞くこと、自分の考えを広げることが大切になっている。

また、読書に関する取組や環境整備は一年間を通して実践し、児童の読書意欲の向上や、読書に親しむ態度の育成、読書習慣の形成を図っている。

#### ウ 児童の実態を踏まえた「伝える力」の育成

本校では、国語科の「聞くこと」「話すこと」「話し合うこと」で示されている内容や思考力・判断力・表現力を、児童に身に付けさせたい力「伝える力」として名づけ、整理している。その上で「伝える力」を活用し、他者とより良くコミュニケーションをしながら課題解決に向かう資質・能力の育成を目指している。



### (2) 授業の実践

#### ア 図書館教育年間計画表の作成

図書館教育に重点を置いて実施した各教科の学習を学年別、月別に一覧表にまとめ、計画的・意図的に実践できるようにしている。低学年から高学年へと系統性をもち、6年間を見通した学習を行っている。

#### イ 図書資料を効果的に位置付け、「伝える力」を育む授業づくり

##### (7) 各教科での実践

国語科を中心に各教科では、豊富な図書資料に触れながら、読書で得た思いや考えを言葉で伝え、お互いの考えを深め合う言語活動を意図的に設定している。

(1) 「スキル授業」での実践

図書資料についての知識や、調べ学習の能力を身に付ける学習を全ての学年で系統的に計画し、実施している。本校では「スキル授業」と呼び、図書資料活用を支えるための学習となっている。

(3) 読書環境の充実

ア 読書通帳の取組

1冊の本を、楽信タイム（清掃時間と5校時の間に全校一斉読書の時間を設定）や休み時間、家庭などで読み、読み終わると、読み終わった日付、本の題名、ページ数、合計ページ数を記入する。合計ページ数がどんどん増え、「今日で1000ページになった！」などと喜びながら、取り組む姿が見られる。



イ 読書の木の取組

約2週間の間に読んでおもしろかった本についての情報を記入する。低学年は本の題名、中学年は本の題名と感想、高学年は書店においてあるようなポップをイメージし、読んだ本を紹介している。完成したものは図書館前に掲示し、全校で共有するとともに各学級の代表者の作品を集めた「読書の木」も作成し、長岡京市立図書館で展示した。市立図書館など関係機関との連携や発信にも努めている。



ウ ペア読書の実施

昼休みの約10分間を利用し、高学年が低学年のペアの友達に絵本を読む活動である。高学年は、朗読する力だけでなく選書の力の育成を目指し、低学年は、新しい本との出会いがある。



エ 読書バイキングの実施

教師による読み聞かせの活動。事前に子ども達に知らされるのは、本の題名であり、子ども達は本の題名から、どの本を読みたいかを選ぶ。

オ 先生からのおすすめの本の紹介や読書クイズの取組

教師が順番に自分がおすすめする本を紹介する。月に1回、掲示板を更新し、常に新しい情報にするよう心がけている。子ども達は、先生の紹介文に興味津々で読んでいる。



カ 学校図書館の環境整備

(ア) 図書館内のどこにどんな図書があるかを分かりやすくするため「仕切り箱」や「仕切り板」を使って整備している。

(イ) 書架の最上段は「面陳列」し、背表紙よりも表紙を見せることで、より児童の興味を引くように工夫している。

(ウ) 「スキル授業」でも学習する「分類番号」は、大きく分かりやすく壁面に掲示する。



(エ) 授業で必ず使用する図書をまとめて学年毎にまとめ、分類番号とは別に「学年の棚」を設置し収納している。

#### (4) 児童の自主性の育成と図書ボランティア等との連携

##### ア 図書委員の活動

###### (ア) 読書集会

年2回、図書に関する全校集会を行っている。図書委員は、自分たちの活動の紹介やクイズを考えたり、教師の朗読に合わせて劇をしたりする。全校児童が毎年楽しみにしている集会となっている。

###### (イ) 選書会

年に一度、選書会を行っている。図書委員は、1人2冊新しく図書館に入れてほしい本を選び、おすすめの本として紹介する。紹介の仕方は、本に帯をまいて見どころを文章で表現したり、新聞に絵と文章を書いて表現したりする。

##### イ 学校司書との連携

(ア) 授業で並行読書材として使用する図書を、学校司書と担任が連携して選書し、授業に生かしている。

(イ) 「スキル授業」では、学校司書が授業者の一人として参加。主に図書に関する専門的な部分を担当することで、児童の理解が深まった。

(ウ) 週に1回、各学年に担当されている学校図書館を利用する時間を使い、学校司書による「読み聞かせ(1～3年生)」「読み聞かせとブックトーク(4～6年生)」を継続して行っている。児童の図書への関心がより高まり、調べ学習に役立っている。

(エ) 給食時間中、学校司書による「放送による読み聞かせ」を実施し、図書への関心が高まるだけでなく、聞き取りやすい話し方のスキルを獲得できた。

##### ウ 図書ボランティアとの連携

(ア) 平成29年度から令和元年度までは、月1回、昼休みの時間を利用して、図書室での「読み聞かせ」を実施した。令和2年度は、週1回「放送による読み聞かせ」を実施した。

(イ) 年に2回、体育館で、図書委員・学校司書と共に「読書集会」を実施した。

(ウ) 学校図書館で、各学年の関心に応じた「ペーパーサート劇」「ロール紙芝居」等を上演した。

(エ) 学校図書館に、様々なテーマごとに本を集めた「ひとはこ・らいぶらり～」を設置した。



## 4 成果と課題

### (1) 成果

ア 低学年からの系統的な「スキル授業」が土台となり、図書に関する知識が日常の学習や活動で活かされている。

イ 低学年から図鑑に触れる学習を行うことで、高学年での意欲的でスムーズな調べ学習につながった。

ウ 図書資料を豊富に活用した授業や読書環境の充実により、児童の読書の幅の広がりや質の深まりが実現した。

- エ 全校児童で読書に取り組む環境作りや活動は、児童同士に好影響を与え、読書に向かう習慣や意欲を向上させることができた。
- オ アニメーションは、読書経験に差がある児童全てを巻き込んで活動でき、次の活動に発展的につなげていくことができた。
- カ 教員が、豊富な図書資料を活用して表現力の向上につなげる授業づくりを身に付けることができた。
- キ 読書が生活の一部となり、当たり前のように本を手取る習慣がついていることを児童自身が実感している。

(2) 課題

- ア 読書量、読書ジャンルなど、個人差への対応について更なる手立てを考えていく。
- イ 小集団にとどまらず、学級全体で討論する力をつける取組を考えていく。
- ウ 読書で得た知識や思いを他者に伝える楽しさや価値を感じられる授業や取組をさらに続ける。